
こもれびの囁き

研生

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ
テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者また
は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ
ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範
囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し
ます。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「もれびの囁き

【著者名】

ZZマーク

N3849D

【作者名】

研生

【あらすじ】

おばあさんの、もの悲しく幸せな回想。ショートショート。

「ほんとこいつらのしゃたんですか」

気がつくと、公園の腰掛けに座っていた。大きな銀杏の小さな木陰。遠くの砂場で女の子が数人、砂山を作っているのが見える。その他には人影はなく、公園入り口の隣にあるブランコは無人のままふらふらと揺れている。

「おばあちゃん、お外に出るときは声をかけてくださいって、いつも言つてるでしょう」

右側から聞き慣れた声が聞こえる。いつのまにか由佳子さんが隣に座っていた。そういえば数年前から一緒に暮らしているのだった。群青色の羽織りにエプロンと、夕飯の支度の途中で外に飛び出してきたような恰好。まだ何事か口が動いているが、よく聞き取れない。こいつときは笑顔でうなずいておくにかぎる。由佳子さんの眉と目は迷惑そうに、でも悲しそうに垂れ下がっている。由佳子さんの顔から手に視線を落とすと、すらりとした細い指。その薬指に鈍い銀色をした指輪が馴染んでいる。息子が選んだ人。息子が贈った指輪。

ふと自分の左手に目を向ける。由佳子さんとそつくりのすらりとした、でもしわくちゃに縮んだ指が見える。その薬指には、半世紀ほど前におじいさんが私にくれた木彫りの指輪が巻きついている。あの時のおじいさんは素敵だった。意思の強い太いまゆ、不器用な一重まぶた、無骨なほお骨。外見からして嘘をつけない人。

気がつくと、目の前には由佳子さんではなく、おじいさんがいた。おじいさんといつても若い頃のおじいさん。おじいさんは恥ずかしそうな顔で、でも堂々と、私のすらりとした皺のない左手をつかんで、木の輪っかに薬指を通しててくれた。ほとんど泣きそうになつた。木彫りの指輪とおじいさんの顔を交互に見た。心臓が早鐘を打つていた。それから自然と顔がほころび、もう笑顔しか表情を作れない

のではないかと心配になるくらい笑顔しかできなかつた。次の日も。その次の日も。おじいさんと私は映し鏡のように微笑みあつた。私が微笑むからおじいさんは笑つていたのだと思つ。おじいさんが笑うから、私ももつと笑顔になつた。

- いつまでも、一緒にいてくれるか？
- いつまでも、一緒にいてもらえるの？

そしておじいさんは死んだ。小笠原諸島の小さな島で、アメリカ兵に火炎放射器で焼かれたのだそうだ。戻ってきたおじいさんは、もうおじいさんの形はしていなかつた。

* * *

気がつくと、田の前には穏やかな顔をした由佳子さんがいた。砂場の子供たちはいつのまにかいなくなつっていた。遠くでからすが鳴いている。

「そろそろ夕飯の支度ができるから、一緒にねひに帰りましょうね」

重い腰をあげるとおじいさんが手を取つてくれた。そして、あの言問いか繰り返される。

いつまでも。
いつまでも。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3849d/>

こもれびの囁き

2010年10月11日15時43分発行